文部科学省認可通信教育

ON AIR

NO. 90

放送大学通信 オン・エア
発行月　平成20年6月
発　行　放送大学
〒261-8586 千葉市美浜区若葉2丁目11番地
043-276-5111（代）

CONTENTS

特集:教授陣による座談会「言葉・表現を考える」 1
平成19年度 放送大学学位記授与式 6
特集:世界のOPEN UNIV.訪問記 Ⅲ 9
特集:学生たちの声 10
「私が通う学習センターの面接授業はここがおもしろい!」
平成20年度学部開設改訂科目紹介 12
就任のごあいさつ 14
研究室だより 16
学習センターだより 17
同窓会・卒業生だより 18
2009年度からの学部の再編成（Ⅱ） 19
インフォメーション 20

特集 教授陣による座談会

「言葉・表現を考える」

附属図書館長　柏倉 康夫
自然の理解　教授　熊原 啓作
人間の探究　准教授　島内 裕子
人間の探究　准教授　宮本 徹
司会　発達と教育　教授　滝口 俊子

写真前列左から滝口俊子教授、島内裕子准教授
後列左から宮本准教授、柏倉図書館長、熊原教授

言葉の海の中に

滝口　本日は、『言葉・表現を考える』というテーマで話し合える機会を、とてもうれしく思っております。まず、ご専門の紹介とご専門の立場から「言葉の重要性」「言葉の楽しさ」について、ご発言いただきたいと思います。

柏倉　私は情報化社会研究、つまり、情報によって社会がどう変わっていくのかを研究しています。私たちは、言葉の海の中に産み落とされ、その中で成長していく。その過程で言葉を身につけると同時に、考える力（思考力）を身に付けていくのだと思います。

もちろん後天的に他の言葉、つまり外国語を身に付けることもできるわけですが、例外を除けば自分が産み落とされた母言を頼りにして生きていく。言葉は、ものを考えるいちばんの基礎で、非常に大切なものです。

私の娘は小学校のときからフランスに行って、日本の学校教育を受けていません。彼女の場合は、フランス語が母なる言葉で、日本語がある意味では後天的な言葉です。ある時「一体何語で夢を見るの」と聞いたことがあります。そうしたら、しばらく考えていて、どうもフランスにいるときはフランス語で夢を見て、日本へ帰ってきて、しばらく経つと日本語で夢を見ると言うのです。

娘の関係でフランスの学校教育の実態を知る機会がありましたが、小学校では1週間の時間割の60%は国語の時間です。通信簿を見ますと、国語だけで10以上の評価項目があります。それほど国語教育に非常に時間をかけています。

小学校では、まず文豪と言われる人たちが書いた文章を徹底的に暗記させ、言葉の正確で美しい使い

柏倉康夫図書館長

方を身につけさせることで、自分の意思を他人に伝えることができるようにする。それが社会生活の上でいちばん大事だと考えているのです。

小学校での徹底した国語教育は、高等中学校での哲学の授業に引きつがれます。哲学の授業では、いかに考えるか、その方法を哲学者のテキストを使って教えます。国語と高等学校の哲学の授業はペアになっているのです。

翻って我が国の現状はどうかということは、後からお話に出てくるのだろうと思います。

式もすべて言葉

熊原　私は数学を専門にしています。数学が対象としているのは数とか図形ですが、重要なのはそれを論理で構築し、積み上げていくということです。ギリシャ時代に始まったと言われていますが、どうしてギリシャでそういう論理的な学問が発達したのかというと、よく分からないのですが、多くの民族の交流があり相手を説得するという必要から論理的な説明が必要だったのではないかと思います。

自然を説明するのにガリレオは、「自然という書物は数学という言葉で書かれている」と言っておりますが、それが部分的に解釈されて「数学は自然科学の説明をするための道具だ」と言われたりすることがあります。実際はそうではなくて、現実にある自然を超えて論理的に組み上げ、それを研究の対象にしますから、例えば三角形の内角の和が180度ではない非ユークリッド幾何学も考えたりするのです。

それでは、そういうものは現実を表してないのかというと、実はそうではなくて、相対性理論では我々がいる宇宙は非ユークリッド的世界ではないかと言われています。自然科学の説明に必要でないところは、数学は単に論理のお遊びをやっていると捉えられることは心外であり、我々の周りにある自然を超えて、もっと普遍的なものを研究の対象にしています。ですから、その記号とか数式を使って論理的に記述しますが、言葉を慎重に定義し、表すものが一義的になるようにします。

そして、その定義しなければいけないもの、定義できないものを最初に準備してやることから始めて、数学を作り上げていく。実際に数学を作る段階は、かなり実験科学に似ているのですが、書き上げたところでは、そういうことをして書き上げて、論理的につながらなければ出来上がった数学にならないのです。証明されていない主張は「予想」と言われたり「仮定」と言われたりします。

数学書は最初に「まえがき」があって、いろいろ定義をして、途中の式も入りますし、定義があったり、定理があったり、証明があったりしますが、式も込めて言葉で出来上がっています。式もすべて言葉で、それにより簡略化します。そのように限定しているために芸術的な表現、文学的な表現などはできないわけです。

熊原啓作教授

出来上がった数学をすべてがこの論理に従って理解しなければいけないかというと、そうではなくて、建物を外から眺めるように、それを数学者はどういう環境の中で考えて、やったものがどういう意義を持っているかを、縦書で書くという数学の本が最近はよく売れているようです。

滝口　すごく面白いですね。柏倉先生の「言葉の海」というのも印象的で…。また後でお願いするかもしれません。島内先生、最初のご発言をお願いします。

相手の言葉をよく聞いて

島内　国文学を研究しておりますと、今回の「言葉・表現を考える」いうテーマは、具体例がたくさんありすぎて、かえって難しいくらいです。口に出して語る言葉だけでなく、書かれた言葉が、研究の対象となります。今、最古の日本文学である『古事記』を、読んでいます。その序文には、表記にとても苦心したと、太安万侶が書いています。どのように言葉を表記して読者に伝えるかが、文学の根源なのだなあ

島内裕子准教授

と、感動しました。当時の日本には、まだ平仮名がありません。漢字で表現するしかなかったのです。

『枕草子』も、言葉について多くのことを考えさせます。清少納言は言葉に対してとても敏感な人で、同じ言葉でも耳で聞いて違うものとして、法師の言葉や男性の言葉、女性の言葉はみんな違うのだということを書いています。言語感覚がすごく細やかで、いろいろなところに関心を持った人だと思います。

ところで、私がいちばん専門にしているのは『徒然草』です。兼好は、歌人でもありました。私の大好きな彼の歌は、「通ふべき心ならねば言の葉をさぞともわかで人や聞くらん」。これは女性に贈った恋の歌ですが、自分の気持が相手に全然伝わらないだろうから、自分がいくら言葉を尽くしてもコミュニケーションがうまくできないと、嘆いているのです。

その兼好が、『徒然草』の中で、自分が発した言葉が相手に通じた喜びを書いた段もあります。他人の言葉への共感も、あちこちに書かれています。言語生活では、相手の言葉をよく聞いて、その人の言葉に自分が感動する場面もとても大事だと思います。

当時は身分的な社会でもあったので、貴族社会の中では話が通じても、それを一歩離れると、また話が通じないという場面があったと思うのですが、兼好は、双六の名人が語った「勝たんと打つべからず、負けじと打つべきなり」という言葉を心に留めて、なるほどと共感します。また、木登り名人の言った言葉に共感してもいます。比喩的な言い方ですが、兼好は耳が良かったのでしょう。

『徒然草』は、教訓的なイメージもありますが、言葉に着目すると、とても人間味のある文学だと思います。

芭蕉の時代になると、さらに言葉の領域が広がってくるというか、和歌では使われなかった言葉が俳句の中ではどんどん使われるようになります。

滝口　宮本先生、お待せしました、どうぞ。

漢字という豊かな表現

宮本　私は中国語を専門にしています。中国語と言いますと、やはりどうしても漢字というものを避けて通ることはできません。ご存じのように、漢字は日本や朝鮮半島・ベトナムといった中国以外の地域でも広く用いられてきました。それぞれの地域の言語に漢字は深い影響を及ぼしています。もちろん私たちの日本語も例外ではありません。

この漢字は、少なくとも漢字を用いてきたこの地域の人々にとっては「表意文字」であると言えます。時代により地域によりそれをどのように発音するかはぜんぜん違ってくるのですが、文字の形（字形）を見ればその表す意味を理解することができるというのが漢字の特色です。そしてこの字形もおおざっぱに言って非常に安定していますから、いつ・誰が書いたものであっても、書かれたものを見れば基本的にその意味が理解できるということになります。つまり、この地域の人々にとって、今日では必ずしもそうだとは言えないのですが、漢字で書き表された文章というのは、時間や空間を超えうるものであったということです。

ただこれは中国語の特質に根ざすのですが、漢字で書かれた文章というのは、誰が、何を、どうしたということがポンポンと書き連ねられますので、同じ漢字を使う日本人の目には、時としてそれが平板に映ることがあります。もちろん中国語がそんな単調なものであるはずはないのであって、漢字という文字の羅列からそこに込められた豊かな表現をいかにして汲み取っていくか、それは非常に微妙なところですが、そういうものを汲み取ることができたときに「言葉の楽しさ」を実感します。

みんなが分かるように話す努力を

滝口　次に、言葉の現状についてご意見・ご感想をお願いいたします。

宮本　「最近の言葉」ということで、インターネットの言葉を取り上げたいのですが、ある有名人が自分のブログで発言したことが、非常に社会的な反響を呼ぶということが近年しばしば話題になります。

日記帳というのは自分しか見ないものですが、日

記に書かれているような私的な言葉が、簡単にインターネットを通じて公的なものに、不特定多数の人が見ることのできるものになってしまう。そういう事態というのは、これまでの歴史の中であまりなかったのではないかと思います。自分の私的な想いを不特定多数の人に伝えられる楽しさはもちろんあると思いますが、それと裏腹に怖さもあるのではないでしょうか。

宮本 徹准教授

島内　言葉は変化すると『徒然草』にも書いてあります。昔の言葉遣いはとてもよかったのに、現代ではだんだん駄目になってきていると、鎌倉時代に既にそうだったのです。現代日本語は、かつての美しさをなくしつつあります。インターネットなどで、自分の思ったことをストレートに言う際には、それがどのように相手の心に波及するかということも、心に留めてほしいと思います。

熊原　私も似たようなことになるかもしれませんが、それぞれの社会で仲間で通じる言葉は便利で、一言いえばある程度のことが伝わるのはいいのですが、それを仲間内でないところでも使う。無意識に使うこともあれば、それを使うことで優位性を示そうとすることさえある。たぶんこれは今に限ったことではなくて、江戸時代なら漢語を使って知ったかぶりをするとか、明治時代なら、外来語を使って知ったかぶりをすることがあるかと思います。

仲間内の言葉や新しい言葉を使って、分からないのはお前らの責任だというしゃべり方をするのはたぶんその人の生き方によるもので、相手を思いやる気持が薄いのかもしれません。

島内　いまのお話は、『徒然草』にもそっくり書いてあります。仲間内だけで通じる言葉で話してしまったり、自分たちのおしゃべりに夢中になって、途中から来た人に配慮できなかったりとか。今と昔と、変わらない面がありますね。

熊原　いつの世も同じ。

柏倉　私個人は言葉や文章に対しては、極めて保守的です。幸か不幸か東京に生まれ育って、小さいときから聴いた音を耳が覚えているわけです。会話だけではなくて、周りから入ってくる言葉です。それが耳の中に定着していて、それと違和感があるものになかなか馴染めません。その点で現在は私にとって気持の悪い時代です。

言葉が時代とともに変化していくことは、十分わかっていますが、それでも許容範囲があるのではないかという気がします。大学院の「情報化社会研究」という授業のために、フランスの学者フランソワーズ・ワケさんというラテン語の研究者にインタビューをしたことがあります。ワケさんは『書くようにしゃべる』というタイトルの本の著者です。これは面白いと思って読んで、彼女にインタビューしたのです。

彼女によれば、近代ヨーロッパ語は、ある時点から文法が出来上がって、それぞれ独立したイタリア語、フランス語、スペイン語になっていくわけです。中世のヨーロッパでは、知識階層はラテン語という共通の言語を持っていましたが、各国語が発達した結果、学者の世界でも相互理解がとどこおる結果になったと彼女は指摘しています。

「書くように話す」というのは、一言でいうと共通言語で話すということです。言葉が通じなくなったものを共通語を探して何とか理解が進むようにする。しかし時間がすぎるとある部分でまた分化が進み、それぞれ独特の言葉を持って、そのサークルへ籠ってしまう。いまの日本ではこうした分化が激しくおこっているのではないでしょうか。ワケさんの言葉を使えば、みんなが分かるように話すことをもう一度さぐる努力をしてみてはどうでしょうか。

「言葉力アップ」のヒント

滝口　それでは、学生たちに向けて、「言葉力アップ」のヒントをお願いいたします。

柏倉　卒業研究や、修士論文について申し上げれば、名文を書く必要はなくて、達意の文章を書く努力をすべきだと思います。そのためには2つ方法があります。1つは、熊原先生が冒頭でお話になったように、論理を貫徹させることだと思います。それはもっと踏み込んでいえば、主語と述語がはっきりした文章

を書くことに努める。日本語というのは、ヨーロッパの言語と違って、主語と述語が表面に出てくるとうるさくなってしまいます。ですから、私なども1回書いたあとで添削を繰り返しますが、表面に現れていなくても、1つのフレーズの主語と述語はきちんと明確に考えて文章を書くべきだと思います。もう1つは、1回書いたらしばらく放っておくことです。これは哲学者のブレーズ・パスカルが提唱した方法で、パスカルは1回書いたらしばらく放っておいて、それから手を入れたのです。残っている『パンセ』の原稿は訂正が多く、彼がこの方法を実践したことがよく分かります。

ただ、パーソナルコンピューターを使うと、放っておく時間が短くて済むと思います。昔、手書きのときは、相当の時間放っておかないと客観的に見られなかったのですが、いまはすぐ活字になりますから、書いたものがある種の客観性を持つのです。いずれにせよ、時間を置いて自分の書いたものが客観的に見られるまで放って置くことが秘けつの１つです。

滝口　熊原先生もアドバイスをお願いします。

熊原　数学書では最初は丁寧に論理を追って書いてあっても、だんだんと途中が省略されてきます。その行間を論理的に読むにはそれなりにトレーニングが必要となります。簡単なものでも最初は絶えず「何故か」と自問しながら読むと良いと思います。

大学院生に「修論の書き方10カ条」というのを書いたことがありますが、その中の1つに、あとで朗読してみなさいというのがあります。修論を書くときは論理的に筋が通るように書くのですが、それをあとで読んでみる、式も声を出して読んでみるのが大切だというのです。そうすると、おかしなところがすぐわかってくるのです。そういう訓練も数学では必要ではないかと思います。

島内　いまの熊原先生のお話とつながるのですが、卒論や修論の指導では、朗読を取り入れています。私の指導する学生には、いわゆる論文調の書き言葉で、毎月10枚ぐらい原稿を書いてきてもらい、みんなの前で朗読してもらうのです。人前で朗読するとなると、文章のテニヲハにも気を付けますし、あまりくだけたことも書けないので、おのずと論文らしい文章が書けるようになります。朗読することで、自分の言葉遣いに客観的になれるのです。音読なしで書き進めると、自分の世界にはまってしまう危険性があるのではないでしょうか。

熊原　そうですね、書いていると迷路に入り込んでいくような、それを少し離れて、どこを進んでいるのかはっきりさせるということになりますね。

島内　そうですね、ちょっと離れて。さらに付け加えるとしたら、平凡なことですが、すぐれた文学作品にたくさん触れて、語彙を豊富にすることが大切です。その点では、たとえば樋口一葉と上田敏の二人がよいお手本になります。彼らの言葉は、耳で聞いて心地よいだけでなく、視覚的に文字を見ただけで言葉の含蓄が伝わってくるような感じがします。

宮本　外国語に関していいますと、面接授業などで学生さんから「どうしたら中国語ができるようになるか」とよく質問されます。その場合にいつも答えることが二つあります。一つは教科書の本文を朗読して暗唱すること、そしてもう一つは辞書を徹底的に引くということです。

言葉というのは自然に身に付いてくるものという側面もありますが、礼儀作法のような側面もあるのではないかと思っています。努力して自分からいいものを見て、真似て、自分でそれを運用できるようになることが非常に大事だと思います。本文の朗読ももちろんそれにつながってきますし、あるいは辞書を引いて正しい言葉の使い方を勉強していくことが、日本語・外国語を問わず言語を勉強する場合に必要なことでしょう。日本語も外国語も言葉である以上、やり方は結局同じだということです。

司会　滝口俊子教授

滝口　日本語でもよかったと思うのですが、なぜ外国語がお好きになったというか惹かれたのですか。

宮本　私の場合、きっかけは中国の古典、特に漢詩の世界から入り、目があちらに向いてしまいました。

滝口　先生方のお話を伺って、私も今晩からでも心掛けたいという気になってまいりました。

平成19年度 放送大学学位記授与式

平成20年3月16日、平成19年度学位記授与式が、NHKホールにおいて挙行されました。
当日は学部卒業生と大学院修了生と同伴者をあわせて、2,033名が出席いたしました。
学歌演奏、学長式辞、渡海文部科学大臣並びに増田総務大臣（代理:河内官房審議官）からの祝辞に引き続き、
卒業生・修了生総代による答辞で閉式となりました。学長式辞・答辞については次のとおりです。

学長式辞

放送大学長　石　弘光

桜のつぼみも膨らみ、本格的な春の訪れが間近かとなりました今日のこの良き日、文部科学大臣をはじめ、多数のご来賓をお迎えし、このNHKホールにおきまして、かくも盛大な卒業式を挙行できますことは、この上もない喜びであります。

全国から参集された卒業生の皆さん、ご卒業おめでとう御座います。本学の教職員を代表して、心からお祝いを申し上げます。また卒業生の皆さんを、これまで支えてくださったご家族、友人の方々、周りで暖かく見守っていただいた知人の方々、卒業生と共に本日の喜びを分かち合っていただきたいと思います。

本日、卒業を迎えられた皆さんの胸中に去来するのは、何でしょうか。それは、おそらくこれまでの長い苦しい日々のことであろうと思います。そしてこの苦難を乗り越え、所期の目標を達成できた喜びで、胸が一杯になられていることでしょう。放送大学での学習は、学習センターでの先生方あるいは友人たちとの交流はあっても、基本的には独りで学ぶ孤独な繰り返しの積み重ねであります。おそらく、皆さんの中には、気力、体力、時間的制約から、学ぶことを途中で放り投げだしたくなった方も多くいられたのではないかと推察いたします。

放送大学では、実に様々な方が学んでいます。会社や役所で働きながら自分での時間を見つけて学んだ人、あるいは子育てをしたり介護をしながら時間をやりくりして勉強された方、ご自分の病気の治療のさなかに学習を続けられている方など、いろいろの境遇の方たちがおられます。今日ここにめでたく卒業式を迎えられた皆さんは、このように背景、動機は異なりますが、放送大学で学び、学士号、修士号を取得するという共通の目標を達成されたわけです。

皆さんが放送大学において、様々な専攻分野で勉学を続けられていたこの時期は、歴史的に見ていかなる時代であったのでしょうか。第２次大戦後、灰燼と帰した国土から不死鳥のように甦り、ごく短期間に高度成長を遂げ、その結果、世界の経済大国に躍り出た日本経済は、いまや一流でないと自己評価されるにいたっています。1991年のバブル崩壊以降、長引く景気低迷は日本経済の活力をそぎ落としたようです。デフレ、低成長の下で、新たな格差社会という深刻な社会現象も生み出しました。またごく最近、アメリカに発生したサブ・プライムローンによる世界経済の混乱は、日本経済にも次第に深刻な影響をもたらし始めています。

このような状況の下で、これからの日本の経済社会にとって最も重大な問題は、人口減少時代における少子高齢化の現象です。人口減少はこれからの日本経済の活力に大きな影響を与えるでしょうし、また少子高齢社会の到来はわれわれ国民の安心と安全を保障するはずの社会保障制度の持続可能性を、非常に困難なものにしています。さらに事態を困難にさせているのは、世界で最悪ともされる国の借金、つまり財政赤字の累増傾向であります。この借金の負担はこのままに放置しておけば、すべて将来世代の負担に転嫁されるわけです。

石 弘光放送大学長

渡海文部科学大臣

河内官房審議官

翻って、世界あるいは地球規模の現象に目を転じると、地球温暖化の影響が顕在化してきています。アメリカの前副大統領アル・ゴアの著作『不都合な真実』に言及する必要もないくらいに、地球環境の汚染は身近に感じられ、将来の地球温暖化の大きな被害が心配されています。地球温暖化は、まさに人類の存亡をかけた大問題なのです。今夏、洞爺湖サミットを控えた日本にとって、世界に環境問題でリーダーシップを発揮せねばなりません。

以上触れた日本、世界をとりまく問題は、われわれを取り巻く深刻な問題のほんの一部にすぎません。放送大学で皆さんは、自然、社会、人文科学の各分野で、これらの様々な問題を、講義を受講しまた教室での議論を通し、真剣に取り組んでこられたと思います。この取り組みは、本日放送大学を卒業するからといって、終わるわけではありません。学問に終わりは無いのです。生涯学習を続けられる中で、更に深め発展させていただきたいと思います。職場に復帰されたり、再び家庭に戻られても、学習を継続する限り、日日、新しい発見があるはずです。この姿勢こそが、生涯学習教育を標榜する放送大学の卒業生のミッションでもあるわけです。

このような生涯学習を続ける過程で、どんな心構えが必要なのでしょうか。18世紀のイギリスの詩人アレグサンダー・ポープは、“A little learning is a dangerous thing”、つまり「小さな学びは、危険なものだ」といっています。これは、知識を単に寄せ集め、また真理の一部をつまみ食いし、知ったかぶりをするような態度を批判しています。「小さな学び」は、全体の真理のほんの一部しか見ていませんから、真に重要な問題を解明できないのです。たとえば、いま日本社会に広がっている格差問題を例にとれば、単にワーキングプアー、フリーターの劣悪な労働条件から招来される低賃金の解消に、正義感からだけ憤っても問題の根源に触れるわけにはいきません。格差問題の根は深く、戦後における日本経済の高度成長と終身雇用、年功序列などの労働慣行にまでさかのぼり思考を巡らさねばなりません。かつバブル崩壊後の景気低迷の過程での労働条件の変質など、幅広い視野から真理の全体を追究する努力の中で明らかにされるべきです。

「沢山の学び」より「小さな学び」のほうが、問題を取り上げ議論するのに、はるかに手っ取り早いのです。そこでこれを避けるために、アレグサンダー・ポープは学問の泉である「ピエリアの泉」の水をたっぷり飲めと、忠告しています。この泉は、ギリシャ神話でミューズの女神たちがやってくる泉で、この水をたっぷり飲めば、バランスよく真実全体を見ることができるということです。この結果、単に知識を集めるのでなく、問題全体を見渡せ、それへ接近する方法も自ずからわかってくるのです。

皆さん、学問体系から生み出されたこの「ピエリアの泉」を、今後ともたっぷり飲んでください。このことは放送大学の学習において、大なり小なり、皆さんは身に着けたはずです。しかしながら更に、この学問の泉である「ピエリアの泉」の水を飲む姿勢を崩さないでください。このような姿勢にこそ、これからも皆さんが身につけるべき生涯学習の源泉があるのです。

「学問は一生のこと」と、いまから50年近くまえに大学を卒業するとき、私は恩師から、はなむけの言葉を貰いました。爾来、この言葉を胸に学問と取り組んできましたが、専門の研究者になると否とに係らず、この一生学ぶということはあらゆる人に共通することなのです。皆さんにもこの言葉を、本日贈りたいと思います。

3月は、「旅立ち」の季節です。皆さんも様々な方向に、旅立たれていかれることでしょう。どうか放送大学で学ばれた成果に自信をもって、旅立ってください。放送大学の同窓会は、近年全国的な組織になってきました。同窓会の一員として、母校との連携を強め、そして皆さんの母校である放送大学の発展を温かい目で見守ってください。再び学びたくなり、放送大学へ戻りたくなったら、皆さんの母校はいつでも、皆さんを温かく迎える用意があります。

皆さんの今後のご発展とご健康をお祈りし、式辞を終わることにいたします。

答辞　教養学部卒業生代表　発達と教育専攻　大橋 敏明

私たちは、入学年度も目的も学習環境も異なる、3079通りの学びの道のりを歩んで来ましたが、今、ここに、「卒業」という共通のゴールに到達することができ、本当に嬉しく思っています。今日の良き日は、その喜びをともに味わうことができる、まさに一期一会の記念すべき一日と言えます。

私は、平成14年4月に放送大学へ入学しました。きっかけは、その1年前、介護に興味を持ったことから受講した、ホームヘルパー養成講座にありました。講座では介護に必要なスキルとともに、「心のケア」の重要性を知ることになり、それまであまり考えたこともなかった、「人の心はどうなっているのだろうか」という疑問を抱くようになりました。そのとき、熱心に教えてくださった女性講師の方が、放送大学卒業生であったことから、心理学を学ぶため、高校卒業から30年の時を経て、放送大学へ進学することになりました。

入学当初は、周囲に聞く人もなく、仕事と学習の両立に不安を感じながらの日々でしたが、2年目以降は、思った以上のペースで学習を進めることができました。今振り返ってみると、我ながらよく頑張ったと思います。

学習を始めて6年、今年度は、これまで学んできたことの集大成とすべく、卒業研究に取り組みました。研究テーマは、「男性役割意識と高齢期の人間関係について」です。定年を迎えた男性の生き方を指して、「濡れ落ち葉」などと揶揄されるのは何故なのか、どうすれば第2の人生を「サクセスフル・エイジング」に結びつけられるのか、という疑問が研究テーマとなりました。このテーマは、自分自身の将来の生き方をも探るものでもあり、心理学的に研究する意義は大きいと考えたからです。

しかし、いざ研究を始めてみると、研究に必要な実証研究などの文献、特に男性を対象にした研究があまりにも少ないことに驚かされました。いくつもの図書館を巡って探し当てた貴重な資料、また、定年を経験された男性の面接調査の結果を基に、論文を書き始めました。論文を書くにあたっては、認知心理学実験や社会調査実習の面接授業で学んだことが、大変役立ちました。そして、卒業研究論文をなんとか完成させることができました。締め切り寸前までアドバイスをいただいたゼミの先生から、「よく、仕上げられましたね」というメールをいただいたときは、「いくつになっても、褒めてもらうということは嬉しいもの」という思いと、今までに経験したことのない達成感を味わうことができました。

今後は、学びの喜びを求めつつ、引き続き大学院の修士選科生として、心理学をさらに深く学んでいこうと思っています。また、現在働いている航空輸送の分野においても、これまで学んできた知識を生かしていきたいと思っています。

本日、卒業を迎えることになりました私たち学生のために、いつも熱心にご指導をくださいました諸先生方、事務手続きなどでお世話になった職員の皆様方、お力添えいただいた友人たち、そして温かく支えてくれた家族に、心より感謝いたします。ありがとうございました。

答辞　大学院修了生代表　臨床心理プログラム専攻　長澤 恵美

本日、私たち一同が共にこの良き日を迎え卒業の喜びを噛みしめることができましたのも、ひとえに学長先生を始め、熱意を持ってお導き下さいました先生方、並びに職員の皆様のお陰と深く感謝申し上げます。

私は母子生活支援施設の臨床心理士として仕事をしてきました。施設に生活する多くの母親たちは、自身、ＤＶ被害や虐待を受けた経験を持っています。このため、彼女たちは、困難な子育てに苦悩し、残念ながら、今度は自らの子どもを傷つけ、そのことでまた自ら傷つくこととなりがちです。そんな母親たちの心理療法に取り組み、全力を尽くしても報われない無力感と焦りを感じ、より役立つ臨床心理士になりたいと模索する日々が続いていました。虐待は大きな社会問題となっていますが、虐待傾向を持つ母親たち自身に対する臨床心理学的セラピープログラムを開発して、親子の幸せに繋がる心理支援に役立てたいという思いは日々私の中で強くなっていました。仕事を続けながら統合的に最新の臨床心理学の知見を学び、研究に取り組むため辿り着いた私にとって最高の研鑽の場が放送大学大学院でした。強い意気込みを持って研究をスタートしましたが、現実は予想以上に厳しいものでした。臨床心理プログラムは、1年目に年間3回、計丸17日間幕張の本部で面接授業があります。また、2年目には90時間の臨床心理実習があるため、日程の調整と確保に大変な苦労が必要でした。ご指導下さる先生方は、日本の第一線でご活躍されている素晴らしい臨床家であり、厳しさの中に温かさ溢れる実践的な講義からは多くの生きた知識を得ることができました。また、医療・福祉・教育・司法等幅広い分野で活躍する社会人である院生仲間との学びあいによるお互いの成長は、放送大学ならではの貴重な体験であり、一生の財産となりました。

修士論文では、個人心理療法と心理教育的母親グループを併用したプログラムの開発に取り組みました。個人療法で母親達それぞれがある程度回復した段階で、母親達の心理教育的グループを立ち上げ、これを併用することで、メンバーによる支えを得るとともに、集団・社会への自立が促進されることになりました。ゼミは率直に安心して学び合える場であり、指導教員の大場登先生とメンバーからは、毎回貴重な意見をいただきました。ゼミでの検討の中で、私は、今まで気づいていなかった自分の傾向に絶えず気づかされることとなりました。私は、心理療法において、クライアントのプラスの面をサポートするように心がけていました。でも、セラピーで母親たちが変容していってくれたのは、彼女たちが語ってくれた「怒り」「悲しみ」を、意識上よりは深い心の部分で何とか受け止め続けたことによるものであることが次第に理解されてきました。これまでの私のセラピーは、自分の意識の部分が拠り所となっていたこと、重い問題を抱えたクライアントとの面接では、私自身が心の深い領域まで開かれていく必要があることに気づくことができました。この気づきの後、私のセラピーはこれまでと違うものとなってゆきました。研究を通して、臨床心理士としての自らの姿勢を省みることができました。改めて、臨床と研究が両輪となって、有効な臨床心理的支援ができることを実感しました。

今後は、ここで学び得た多くのことを生かし、親と子、家族の幸せのために、臨床心理士として精一杯取りくんでいく覚悟です。

韓国放送通信大学（KNOU）の訪問

放送大学 副学長 岡部 洋一

岡部副学長

世界中どこにでも、放送大学のような組織があります。先日2008年1月31日から2月1日と、本学の熊原先生、二河先生と一緒にお隣の韓国の放送通信大学 KNOU（Korea National Open University）を訪問してきました。場所は繁華街の明洞から地下鉄で数駅のところにあり、元ソウル大学跡に、その他の大学と一緒に建っています。周りは典型的な学生街でした。キャンパスはグランドがないせいか、日本の放送大学より狭いのですが、二つの大きな建物は、本部とディジタルメディアセンターで、特に後者が印象的でした。

KNOUの本部と学長

見学は、まずそのディジタルメディアセンターから始まりました。そのセンターはかなり大きく、数階の建物でした。驚いたのは、すっかりインターネット化されていることでした。授業の一部は、放送されていますが、ほぼすべての授業がインターネット配信され、Webラーニングもできるようになっています。なお、ラジオについては今学期で廃止とのことでした。

韓国では、すべての学生に対して、インターネット学習を前提としてよい、また、遠隔地も光ケーブルで繋がっているとのことで、日本の方がインターネット普及率が高いと思っていたのに、びっくりでした。ちなみに、本学の調査では約20%の学生さんが、インターネットの使いづらい環境にあるか使い方を知らないとの回答でしたから、当方の方が遅れていることになります。

また、制作の支援体制も高く、PPT（プレゼンの資料）の作成スタッフも多く、このため、すべての音声番組にPPTが付いているそうです。この体制を確立するために、すでに5年をかけてきているとのことでした。本学ではラジオ番組配信を初めたばかりですから、まだまだ遅れていることになります。また、制作スタッフも20から30代と若く、インターネット化に極めて前向きです。さらに、韓国は著作権の権利意識がまだ低いようで、教育の分野で著作権が問題になることはほとんどないそうです。欧米は著作権については日本のようにしっかりしていますが、教育用途は例外扱いになっていることが多いのですが、日本は権利者保護の傾向が強く、本学も含め、どこの大学でも、インターネット化には苦労しています。

翌日、ソウル市内の地域キャンパスを見学に行きました。本学の学習センターにあたるものです。キャンパスの総数は14なので、本学の方が数倍多いことになります。たまたま旧正月の直前で休日だったこともあり、学生さんと直接話すチャンスはありませんでしたが、本学の面接講義と同じような、対面式講義に加え、衛星放送やインターネット中継によって、本部や他の地域の講義が聞けるようになっていました。なお、本学とは異なり、放送講義の一部を対面式で聴く義務があるとのことでした。ここで印象的だったのは、保育ルームがあることで、全地域キャンパスに、備えられているとのことでした。学生の負担は子供のおやつ代のみだそうです。

以上、学ぶことの多かった訪問でした。

説明を受ける副学長一行

保育ルーム

学習センターの面接授業を
受講する学生が紹介します!

私が通う 学習センターの面接授業は ここがおもしろい!

[西日本編]

在学生の皆さんにとって、より身近で関心の高い情報として「学生たちの声～私が通う学習センターの面接授業はここがおもしろい！～」を企画いたしました。各学習センターの学生から、特色ある面接授業に関連した内容についてお書きいただいております。今月号では西日本地区の25人の学生をご紹介いたします。

長崎学習センター

私は、『原文で読む「おくのほそ道」』を受講した。その中で「尿前の関」で封人（国境を守る役人）の家に宿を取った時の出来事が印象的な一句であった。「蚤虱馬の尿する枕もと」一晩中蚤や虱にせせられて眠るどころではない。その上枕元では馬が尿をする。何ともわびしく切ない旅寝である意を、先生がユーモラスに解説されるので、とても面白く可笑しく拝聴した。

米田 栄治

沖縄学習センター

石垣島では学生が増え、年に3～4回程、面接授業も行われています。石垣にあるサンゴや魚介類の研究者による面接授業など、石垣ならではの授業もあります。県外からの参加の学生、石垣の学生、沖縄学習センターよりいらした先生との情報交換など、教授を囲んでの懇親会の楽しみもあります。

学生の皆さん、石垣島の面接授業に参加しませんか。

新良 はるみ

佐賀学習センター

私は、身近な内容で、日本の棚田百選に選ばれた田畑で実習ができる体験型の授業に魅力を感じ、即申し込みました。人や動植物にやさしい農業の取り組みについて学んだ後、二日目に、自然農を実践されている田畑で作業をして、作物の育ちのたくましさを実感することができました。弁当を囲んで、棚田を守る地域の方との交流もでき、すばらしい二日間でした。

中山 恵

鹿児島学習センター

NHK篤姫のドラマや近年の焼酎ブームもあって『焼酎学』の面接授業を受講しました。まず焼酎とは？の疑問を解決すべくアルコール全般の基礎知識、他のお酒との違いを知る講義が行われ、その後教室だけの授業とは一味違った焼酎工場での体験学習が行われました。2日間の講義で県外の学生さんとも和気藹々となって、焼酎（お酒）の不思議な力を感じました。

酒匂 一俊

福岡学習センター

博物館学概論は、建設されて間もない九州国立博物館で行われた。博物館での面接授業は全国の放送大学で初めてのようで、新鮮で学術的な雰囲気を醸し出してくれた。

九州が置かれた古代の歴史的環境の意義とその展示、文化財の塵、湿気、温度管理方法等の講義とバックルームの精緻な保存・修復機能に感動を覚えた。

鹿島 脩一

宮崎学習センター

英語の面接授業は受講生を6人程のグループに分け、提起された英文の主張について、グループ毎に賛否の意見をまとめ、最後に英文で発表を行いました。

私達6人はあらゆる角度から問題を検討し答えを模索しました。その真剣な作業を通しお互いに支えあう友達の輪が広がり、私は大学生として、教室で先生や学友と共に学ぶ楽しさに感動しました。

江川 温子

高知学習センター

2005年11月開講の「DNAと動物の進化」では大腸菌懸濁液を用いてDNAを抽出し、PCR法により増幅を行い、蛍光を当てて観察する実験を行なった。

淡く白いDNAを初めて見たときはちょっとした感動を覚えた。講師の先生方による指導により一連の実験がスムーズに終了し、印刷教材の内容についての理解が大いに深まった。

横山 修

大分学習センター

別府市の竹細工伝統工芸産業館で地域密着型の授業「竹細工概論」を受講し、地場産業の魅力を勉強しました。伝統工芸士の先生から民具、生活用品、湯治客の土産物として竹細工が別府の伝統工芸産業となった歴史を学び、先生の巧みな技術も見せていただきました。今ではファッションや室内インテリア作品も手がけ、その活動は世界的であるのも新しい発見でした。

白根 道代

愛媛学習センター

大洲青少年交流の家で行われた「生涯スポーツ」に参加し、肱川の清流でカヌーを体験。パドル使いに悪戦苦闘しながらも大自然を満喫し、楽しいひと時を過ごしました。その夜、宿泊棟では参加した様々な世代の方たちと語らい交流を深めることができ、翌日は、体力測定やバレーなどで普段の運動不足を解消。2日間で心も身体もリフレッシュすることができました。

平林 ゆかり

熊本学習センター

屋外での面接授業がおもしろい。今回は「熊本城400年の歴史と文化」ということで実際に復元中の本丸御殿大広間を、しかも一般公開に先立ち特別に見学することができた。日本の三名城の一つ加藤清正が築いた熊本城の石垣や各櫓、そして小天守から大天守まで探究する。現地に立ちそこにしかないものを味わう、実物に触れ学ぶことはまさに学習の醍醐味だ。

西村 光弘

香川学習センター

香川学習センターの面接授業の面白い点は、機器を使っての実験講座があることです。例えば古生物学入門では、顕微鏡を使って古土壌中の胞子や葉などを観察し、年代を特定しました。また、基礎化学実験では、ピペット、試験管、フラスコ等を使って薬品を計量・混合し、その結果を計測して意味を考えました。一度、香川学習センターでの実験講座に参加してみませんか。

久間 敬二

徳島学習センター

「え！瀬戸大橋を渡って来たの？」。徳島学習センターの周辺には大きな大学が4つあり、高名な先生方もたくさん活躍されております。加えて学習センターのご努力によりまして、毎回、高度な魅力的な面接授業が企画されています。それ故、他県からの大勢の仲間たちも、海を越えてまで受講にやって来ております。一度来てみませんか？ "人生、今が一番若いのです"

上程 康文

奈良学習センター

一押しは、仏教美術の宝庫奈良国立博物館で開催される授業です。テーマは古代奈良美術を中心とし、学芸員による臨場感溢れる講義はファンには毎回垂涎の的です。受講者も全国各地に亘っています。今年2月には「正倉院宝物と仏教工芸」がありました。例年にない大雪で真っ白に覆われた奈良公園を臨むなかでの授業は鮮やかな思い出となっています。

河口 敏雄

山口学習センター

07年春、学部を卒業、次の進路を探していたその時に出会ったセンター開設10周年記念面接授業「萩まちじゅう博物館」が脳裏に焼付いており、吉田松陰・高杉晋作等明治維新の人材輩出の地、夏みかんと武家屋敷の町並み、萩焼窯元、美術博物館等の実地見学をしながらの面接授業であった。今年は同様の面接授業が下関市で開催の由、受講が楽しみです。

八陣 道雄

兵庫学習センター

私の所属する兵庫で、特徴ある面接授業と言えば「化学実験（斉藤恵逸先生）」がなんと言っても一番や！平成16年2学期に始まって昨年の2学期まで、4年続いていますが今後も続けていただきたい科目です。お師匠さんである、室松客員教授がいらっしゃる限り、斉藤先生もお受けして下さるでしょうか？
私は失敗ばかりしていますが楽しいです。

菊角 昭春

広島学習センター

広島の面接授業（自然観・環境観の変遷、講師：成定薫先生）では環境論がよかったですね。ニュートンの万有引力は勿論、ギリシャ神話から始まって、牧歌的な自然観、帝国主義的な自然観まで話が及ぶ。ダーウィンが、ガラパゴス諸島を訪れ、イグアナ・フインチ・ゾウガメなどが生存のために変異していく『種の起源』の話はとても面白い。

村中 邦次

大阪学習センター

放送大学のメダマは面接授業！　所長の講師紹介があり授業開始。講師陣は、マイクを握り視聴覚機器を操り稀には肉声のみで、例外なく2日間5コマの長丁場を全力投球される。夏は薄暮冬は夕闇に包まれた四天王寺に近い大阪学習センターの講義室にフィナーレの時が来て、暖かい拍手が講師を労う。"知るを楽しむ"私のアンチエイジングの特効薬は放送大学！！

吉野 俊明

岡山学習センター

まもなく82歳になる私が、二年前選科履修生として面接授業の「フランス語会話入門」を履修したが、終了時、挨拶などの会話がやっと出来る程度だった。
しかし授業の最後を締めくくって下さった萩原先生のシャンソンの哀愁の響きが未だに耳に残っている。フランス語会話を出来るだけうまくなろうと思う気持ちを維持できるのは、あのシャンソンの響きが誘う力だと思う。

佐倉 マリ子

京都学習センター

京都の授業はとても魅力的です。センター内での講義はもちろんのことですが、日ごろ立ち入ることの出来ない、日本各地にある京都大学の施設などを利用しての講義は楽しいです。私も、飛騨・石川・白浜・京丹波町（京大附属牧場）の面接授業に参加させていただきました。また講義後、宿泊先で教授や仲間と親睦を深めることが出来るのも楽しみです。

稲垣 裕久

島根学習センター

島根学習センターの面接授業の特徴は、地域密着型の学問を開講している点にあると思います。有名になった石見銀山や出雲大社など多くの文化遺産、遺跡や宍道湖をはじめとする環境資源があるとともに、高齢化、過疎化社会でもあります。それらを学問の対象として、研究をしている先生方から直接指導を受けられるのが素晴らしいところです。

井川 いずみ

滋賀学習センター

豊かな自然と歴史に恵まれた滋賀学習センターの興味深い面接授業に誘（いざな）われて学ぶ学生の一人である。地球環境問題を軸に琵琶湖の水や里山の森林などの多様な環境に関する授業、世界文化遺産の延暦寺で開催されたこともある宗教に関する授業、ココロと共生からの視点での心理・福祉に関する授業そして日本史を飾る近江の歴史に関する授業などが大変面白い！

越 哲男

鳥取学習センター

鳥取大学田邊教授の「見て聞いて食べて知るナシの歴史」という面接授業を受けました。研究者・栽培農家の努力により今日の鳥取名産二十世紀梨の名声を博したことに感銘を受け、翌日は同大学付属農場で収集された約300種の梨を味わい、味の変遷を体験することができました。やはり現在の二十世紀梨がすばらしいと実感した面接授業でした。

加藤 一郎

福井学習センター

「アジアの恐竜」を発掘調査された東 洋一先生の講義は、恐竜化石の歴史を深く掘り下げていくので、資料に触れているうちに、私はタイムスリップして、目の前に恐竜が現れ、恐竜の尻尾に乗ってみたい衝動に駆られました。また、恐竜は絶滅しているのではなく、鳥へと姿を変え、現在もその子孫が繁栄しているのです。恐竜博物館がある福井ならではの講義です。

高野 朝子

和歌山学習センター

和歌山県には、70ヵ所以上の温泉がある。地下1500メートルから、一億年前、あるいは、3800年前の温泉が湧出している。「ゆったり湯学」では温泉を科学し、水質の測定、成分表の見方と温泉豆腐や温泉玉子をつくり、試食そして湖底土による染めの実習など、和歌山学習センターならではの面接授業、楽しい二日間でした。

伊藤 泰典

石川学習センター

「温泉の科学とその応用・利用」田崎和江先生の講義は会場が片山津温泉、湯の元公園で柴山潟の水質測定、温泉水を使っての温泉豆腐・温泉卵作りと試食、柴山潟の泥と温泉水を使っての晶子染めの体験など、現地の人達との交流や町おこしの説明もあり、リラックスした雰囲気での珍しい面接授業でした。県外からも多く参加されていました。

新木 京子

現代世界の結婚と家族（'08）

「生活と福祉」教授 宮本 みち子　追手門学院大学教授（放送大学客員教授） 善積 京子

宮本 みち子 教授

善積 京子 教授

21世紀社会の姿は、「家族」のゆくえを抜きにしては考えられないといわれるほど、現代社会は家族が将来を占う鍵を握っています。先進国では、社会システムとしての結婚と家族の大きな変動が、その他の社会システムに大きな影響を及ぼし、人々の生活や人生の様相を変えつつあります。晩婚化・同棲の一般化、婚外出産の増加、高い離婚率、出生率の低下、家族の脱制度化と個人化が進行し、いまや標準的な家族モデルは消失しつつあるといわれています。一方、経済発展の続くアジアの国々でも、結婚と家族の変容は顕著で、しかも変化のスピードは欧米諸国の経験より早い状態にあります。そこで、この科目では、現代の結婚と家族の動向を比較文化の視角で見ていきながら、社会タイプの違いを超えて共通する傾向と、独自の特徴を整理していきます。欧米では、アメリカ、イギリス、フランス、スウエーデンを、アジアでは、日本、中国、台湾、タイ、シンガポールを取り上げます。講義では、実態を理解できるように、できるだけ具体的な事例を紹介しながら、家族という誰にでも身近な事象を通して、マクロな社会への理解につなげていきたいと思います。講師が、アメリカとイギリスに行き、結婚や家族に関してインタビューをしたものも紹介します。

大学と社会（'08）

広島大学大学院教授（放送大学客員教授） 安原義仁
広島大学大学院教授（放送大学客員教授） 大塚 豊
東北大学教授（放送大学客員教授） 羽田貴史

安原 義仁 教授

大塚 豊 教授

羽田 貴史 教授

大学・高等教育に関する放送大学の開講科目（学部専門科目）としては、これまでに「高等教育論」、「変わる大学と社会」、「岐路に立つ大学」があります。「大学と社会」はこれらに続き、平成20年度から新たに開講するものです。

近年、グローバル化の進展や高度情報化社会、知識基盤型社会あるいは生涯学習社会の到来とともに、大学のあり方、とくに大学と社会との関係が大きな問題となっております。人口動態の変化や大学進学率の上昇（高等教育のユニバーサル化）、そして行政改革など大学を取り巻く社会環境は大きく急速に変容しつつあり、それに伴って大学のあり方があらためて問われているのです。本開講科目は、こうした大学と社会をめぐる問題について学ぼうとする人々に、基礎的な知識を提供しようとするものです。

現代における「大学と社会」の問題について学習するに際しては、歴史的・国際的視野に立つことが不可欠であるとの考えから、まず、現代日本の大学が形成されるに至った経緯を比較史的な観点から概観し、そのうえで、現代日本の大学と社会との関わりを、現代社会を特徴づける思潮や現代社会の特質に配慮しつつ、大学の活動・機能や組織・運営の観点から考察します。大学と社会について、多くの人々に考えてもらいたいと思います。

日本の思想（'08）

聖学院大学教授
（放送大学客員教授）　清水 正之

清水 正之 教授

外国での留学や駐在を経験した人が、もっと日本のことを知っておくべきであった、という感想を述べることがよくあります。しかし、日本のことを知るということはどういうことなのか、必ずしもはっきりはしません。歴史の事実、あるいは伝統芸能の知識のことなのか。その人の置かれた環境にもよることでしょう。しかし今年度から開講された「日本の思想」を担当している私としては、「日本の思想」を理解することは、日本を知る重要な要素であると考えています。われわれがどのようにものを考え感じ取ってきたか、また今はどうかについては、広い意味での思想を学ぶことで明確になる面が多々あります。

「日本の思想」と呼ぶものは、西洋の哲学史上の大きな体系と比べるならささやかにみえますが、文学や歴史と解け合いながら、日本人が思考し感受してきたことの道筋です。

講義では、思想の大きな流れ・展開をおさえる、という形を取ってみました。思想を学ぶことは、同時に私たちがいま何かを考えていくことにつながります。神道、仏教、儒教、近代の諸思想、と学んだあと、受講生自身が興味を引かれた思想潮流や思想家、作品に向き合うようになるなら、講義を担当するものとしては、それに勝る喜びはありません。

なじみのない古典を多く扱うことになりますが、読解の苦労をのりこえて、少しでも思想家や作品の襞に分け入ることで、思いの外に深い核心にふれることができるようになると信じます。

数学の基礎論（'08）

「自然の理解」准教授　隈部 正博

隈部 正博 准教授

数学基礎論とは、数学を「言語」という視点で見つめ直そうというものです。例えば英語を最初に学ぶとき、アルファベットaからzまでを学び、その後英文法を学びます。数学という言葉（外国語？）も同様に学ぶわけです。数学には独特な言い回しや推論があります。背理法とか対偶とはどういうものか。また（こんなことを言うと笑われるかもしれませんが）1+1はどうして2になるのか。こんな素朴な疑問に関する論理的な解説もします。また数学の文章（これを命題とか論理式といいます）が「正しい」とはどういうことでしょうか。そもそも皆さんはある事柄が正しいということをどうやって認識するでしょうか。数学では「証明」という手段を用いて正しさを認識します。では証明とは何でしょうか。この授業の目標の一つはゲーデルの不完全性定理です。この定理は数学のみならず人文社会にも大きな影響を与えました。数学は白黒はっきりしたものと思われるかもしれませんが、この定理は簡単に言えば、数学の命題のなかには、正しいとも間違いとも判定できないような、そういうものがあるということです。またこの分野は情報科学の基礎理論と深いつながりがあり、論理回路やリレーショナル・データベースについて解説します。この授業は自然の理解の学生のみならず、他専攻の学生向けでもあります。従って予備知識は特に仮定しませんし、初めて数学を学ぶ人もある程度読み進めることができるような配慮があります。

就任のごあいさつ

放送大学のネットワークで新しい教育・研究交流を

発達と教育 教授
教育開発プログラム 小川 正人

これまで九州大学、東京大学と所謂「研究大学」で仕事をしてきたこともあって、社会人・現職者が主たる学生・院生である放送大学は、私には極めて新鮮ですが、他面ではどのような教育指導や研究活動ができるかは暫く手探り状態が続くのではないかと思っております。ただ、これまでも、国や自治体の教育行政や学校の現場で多くの現職の方々と一緒に仕事をしてきており、その楽しさや困難さも十分に知っているつもりでもおります。

私の研究上の専門領域は、教育政策・教育行政学ですーその中でも近年は、主に、①国の教育政策過程の力学、構造や教育政策の検証、②国と地方自治体の教育行財政関係と分権改革、③自治体の教育行財政改革と教育政策の可能性、④教員給与・人事管理、等の調査研究に取り組んできました。今後は、放送大学の教育・研究の性格上、自分の専門やテーマを更に広げながら他領域・隣接諸科学との連携・協同の仕事もできればと考えています。専門学会等とは違った、放送大学の場と人々を通じて教育政策・教育行政に関する教育・研究の交流や情報交換の全国的ネットワークの一つを作り出せると面白いとも思っています。

小川 正人 教授

宜しくお願い致します。

ともに現代中国研究を

社会と経済 教授
総合文化プログラム 文化情報科学群 西村 成雄

本年4月に着任いたしました。

私の専門は20世紀を中心とする東アジア国際政治と中国政治研究です。今後日本がどのように東アジアで共生してゆくのかを考えるための、より広い共有しうる「知のプラットフォーム」を、みなさんとともに構築することができればと期待しています。

この東アジアの「知のプラットフォーム」からみると、中国政治研究は、日本社会に内在化した構造的緊張関係のなかに置かれています。あらゆる領域に拡大しつつある経済的相互依存性がいっそう高まるなかで、政治的社会的緊張と矛盾をどのように調整し解決することができるのでしょうか。そのひとつの視点に「食の安全共同体」「環境安全共同体」「安全保障共同体」などグローバルな諸課題と結びついた、東アジアレベルの独自な地球規模の公共財を形成すべきだとする議論が出されています。

西村 成雄 教授

これから、みなさんとともに今日の東アジアの政治と社会を解明しつつ、そのなかの中国政治の構造的特質を再認識し、新たな知を共有し、それぞれの到達目標の第１段階をめざしてともに学びたいと思います。

アジアの歴史を知る

人間の探究 教授
総合文化プログラム 文化情報科学群 吉田 光男

このたび縁あって放送大学に赴任してまいりました。私の専門は東洋史ですが、その中でもとくに朝鮮半島の近世史を研究してきました。社会・政治・経済・文化全般にわたって考察の対象としており、日本や中国との関係にも目配りをしてきました。

日本と朝鮮半島とは古代から深い関係をもって歴史を歩んできました。21世紀はアジアとの関係がますます深くなっていきますが、とりわけ韓国との関係は今まで以上に密接なものになることはまちがいないでしょう。外国との関係で大切なことは、それぞれの地域がもっている独特の文

吉田 光男 教授

化や社会を理解し、それを相互に尊重しあうことです。そのためには歴史的な背景を知っていることが欠かせません。しかし、日本ではまだまだアジアの歴史に対する知識が十分だとは言えません。学ぶ機会が少ないこともその理由の一つではないでしょうか。放送大学では、基礎的な知識を紹介するとともに、その知識をもとにして歴史とは何かを考える方法について扱っていきます。放送というメディアのもっている利点を生かし、皆さんに学ぶことの楽しさを伝えたいと思っています。

私はこれまで大学で歴史の教育と研究を行ってきましたが、その間、放送大学でも客員教授として学部・大学院の講義を担当してきました。放送大学の学生さんには、他の学生とはちがった熱意を感じます。皆さんの勉学意欲を満足させようと張り切っています。一緒に勉強していきましょう。

メディアの持つ可能性

発達と教育 准教授
教育開発プログラム 森 津太子

この4月に放送大学に着任しました。専門は社会心理学で、特に私たちが日常生活の中で行う種々の社会的判断の背後にある認知メカニズムの研究をしています。またそうした研究に加えて、テレビ、携帯電話、インターネットなどのメディアが人間の心理や行動に与える影響についても検討してきました。その意味で、テレビとラジオを主な教育手段とする放送大学は、私の関心領域が実践的に展開されている場と言うことができるかもしれません。

メディアが人間に及ぼす影響というと、とかく否定的な側面に目が向けられがちです。事実、この領域の研究をしていると、どうしたら子どもたちからメディアを取り上げることができるか、といった質問をよくされます。メディアこそが悪の根源だと思われているのです。しかし私は、努めてメディアが持つ豊かな可能性のほうに目を向けるようにしてきました。

森 津太子 准教授

放送大学に就任したいま、その思いはさらに堅固なものとなっています。ただそうはいっても、メディアができることにももちろん限界があります。面接授業などを通して、一方では学生の皆さんとの直接的なふれあいを大事にしながら、よりよい学習環境とはどのようなものか、これから探っていきたいと思っています。

新任学習センター所長の紹介

山形学習センター所長
前 山形大学副学長
柴田 洋雄

茨城学習センター所長
前 茨城大学附属図書館長
朝野 洋一

栃木学習センター所長
前 宇都宮大学国際学部長
鯨井 佑士

千葉学習センター所長
前 千葉大学理事・副学長
宮崎 清

静岡学習センター所長
前 静岡大学学生部長
本多 隆成

京都学習センター所長
前 京都大学教育学研究科長・学部長
藤原 勝紀

大阪学習センター所長
前 大阪大学文学部長
柏木 隆雄

鳥取学習センター所長
前 鳥取大学医学・地域連携推進機構長
西田 良平

徳島学習センター所長
前 徳島大学歯学部附属病院長
中條 信義

高知学習センター所長
前 高知大学教育学部附属中学校長
石川 充宏

長崎学習センター所長
前 長崎大学理事・副学長
崎山 毅

鹿児島学習センター所長
前 鹿児島大学理事・副学長
竹田 靖史

学部生の指導に力を向けて

人間の探究 教授
総合文化プログラム 文化情報科学群
内堀 基光

放送大の教員になってから3年目に入った。初年度から大学院生4名を担当し、また卒業研究（卒論）を行なう学部生4人の指導をした。幸い、院生4名は2年で修士号を取得し、学部生も全員卒論を書き上げてくれた。学部生のうち2名が大学院に進学したこと、とくに1名が人類学では老舗の大学院に入ったことは、うれしい誤算とも言えることだった。放送大に来るまでの7年間は大学の附置研究所にいたため、学部生との接触はなく卒論指導もひさしぶりだったので、1年ちょっとという短期間での指導ではどうなることかと心配もしたが、それがまったくの杞憂に終わり、それどころか卒研生が一般の通学制大学の学生以上の熱心さで卒論執筆に取り組んでくれたことに、ほんとうに感謝したい。卒業論文も修士論文も、学生諸君が一般より困難な条件下で執筆するには、教員の個別指導がもっとも適切だと考えている。今のところ、どうしても大学院に時間も精力もとられがちである。だが、これからは一層の

修士1年院生とともに（内堀教授は右端）

力を学部生の指導に向けていきたいと思っている。放送大の基本は学部にあると考えるからである。できれば私と同じ団塊の世代の学生諸君に来てもらいたいところである。

●院生からのコメント●

私は、沖縄文化と日本文化の差異を『菊と刀』の著者ルース・ベネディクトがどう見たのかを中心に調べ、修士論文を作成しようとしている。ベネディクトが沖縄を日本の中でどう位置づけ、それが戦後の政策にどう影響したかまで調べたい。内堀ゼミでは丹念な個別指導をしてくれるのが嬉しい。

（喜友名カツ子）

食事会での話

発達と教育 教授
教育開発プログラム
住田 正樹

教育問題や子どもの問題は関心が高い領域で、ゼミ生も多いため論文指導は学部生、修士1年生、2年生と3クラスに分けて行っています。しかし時間が足りず、それぞれ2日間続けて行うこともあります。各クラスともゼミ終了後の夜は食事会です。食事会での学生の話題は2つ。論文執筆の不安と仕事にまつわる話です。仕事にまつわる話といっても、学生には幼稚園から小・中・高の先生が多く、また専門学校の先生もいますので、私にとっては教育現場の最新情報です。驚くような話ばかりなので、学生の話を聞きながら私が発する言葉は4語。「フ～ン」「へ～エ」「ホ～オ」「それは大変だ」。この4語をそれぞれの人数分繰り返した頃に食事会は終わります。しかし不安だと言いつつも、ほぼ全員が締切までに論文を提出するのですから大した気力です。そして口頭試問終了後の食事会で出てくる学生の言葉は「もっと勉強したい」です。いや、実に嬉しい言葉です。

●修了生からのコメント●
～「気付き」から学ぶ～

ゼミの連絡が届くと、嬉しさがこみ上げてくる。全国各地から集う仲間の研究や住田先生の教えからは、テーマが違うのにも関わらず、自身にとっての打開策となる大きな「気付き」が得られる。自分の番になると「ここは、まだ弱いところだな。」と思っている部分に、妥協を許さない住田先生から見透かされた様に指摘を頂き「気付き」を得て学ぶことができる。次の開催が待ち遠しいゼミ、それが住田ゼミの魅力である。

（修士課程2年　高谷将宏）

三重学習センター所長　菅原 庸

学　習　セ　ン　タ　ー　だ　よ　り

文化の丘に集い、語り、学ぶ三重学習センター

日本で一番短い名前の街である津市は古くは城下町として、またお伊勢参りへの参宮街道の宿場町として大変栄えた街です。

三重学習センターは、三重県文化会館、三重県立図書館、三重県生涯学習センター、三重県男女共同参画センター等で構成する三重県総合文化センターに入居しており、生涯学習という観点からいえば一粒で二度（三度？）おいしい恵まれた立地条件にあります。また、近くには三重県立美術館もあり、さらに将来的には三重県立博物館もセンター近くへの移転が予定されており、まさに「文化の丘」と申し上げて過言はないでしょう。

そんな立地条件のよさを生かして、本学習センターは、放送大学本部の放送教育を核としつつ、所長以下各専門分野で活躍する著名な6名の客員教員が、それぞれの専門性を活かしたセミナーや面接授業、公開講演会を開き、また学生への指導・相談などの活動をきめ細やかに行っています。

三重学習センター所長・職員

自然探勝と食味の会

三重県は南北に長く、津市は中央部に位置しますが、学生さんには北は桑名市から南は紀宝町まで、まんべんなく在学し勉強していただいています。それというのも三重県はケーブルテレビ普及率が比較的高く、学習センターでの学習のみならず学んでいただく機会が多いからと思われます。キャリアアップのため、生涯学習のためにと学ぶ目的はそれぞれですが、半年に1回の「入学生の集い」開催時には毎回多くの在学生と新入生が顔を合わせ、和気あいあいとしたひと時を楽しんでいます。

また三重大学等との連携をもとにした面接授業は県外の学生さんにも人気で、海洋実習や天体観測の授業には他県からも多くの受講生が来られ、好評を博しました。

公開講座

学生の研修旅行や学生相互の交流も活発で、現在８つのサークルが活動しています。《談論風発》活発な意見が飛び交う「談風会」、アート作品を作り批評もし合う「アートのひろば」、古今の中国文化を探求する「中国文化を語る会」、その名もずばり「歩こう会」、気軽に喋る会「学生のお喋り会　自然に語らう」、《人間とは》を映じる「人間の探求」、日本の古典文学に親しむ「古典文学研究会」そして「インターネットクラブ」。それぞれ興味・関心のあることにのびのびと楽しんでおられます。もちろんサークルのかけもちは当たり前、2つ3つと活躍の場をお持ちの方も…。

みなさん、三重県津市にお越しの際にはぜひ、当学習センターにお気軽にお立ち寄りください！

三重学習センター
津市一身田上津部田1234（三重県総合文化センター内）
〒514-0061〈JR・近鉄 津駅からバス5分〉　電話:059-233-1170

会員による会員のための同窓会をめざして

香川同窓会会長　小林 正司さん

香川同窓会は今年9月に創立5周年をむかえます。センター所長をはじめ事務の皆様のご協力を得ながら役員一丸となって「創立5周年記念講演会」の開催準備を進めております。たくさんの方々にご参加いただき、共に喜びを共有したいものです。

さて、香川同窓会では会員の皆様に企画の提案や運営について広く募集を行い、親睦はもとより研究発表の場、学びと研修を形にするお手伝いをしています。

卒業生や私たちの身近にもキラリ輝いている方はたくさんいらっしゃるものです。そんな方々による近年の活動の一部を紹介しますと、書家の南　竹冷先生には長年研究されている「千字文」を絡めながら実演を交えての講演は、親しみやすく書を身近に感じられました。会員

で生田流大師範の篠原雅筝先生には「箏の歴史と成り立ちについて」の講演と実技指導をしていただきました。参加者で「上を向いて歩こう」を合奏して、素晴らしい思い出になりました。また、心理学系(人間関係・問題解決)を学びたいという方が多いので毎年「アサーション」、「SFA（ソリューション・フォーカス・アプローチ）」、「論理療法・来談者中心療法」などを用いた対人関係のあり方の学習会を開催しています。その他にも交流・親睦の場つくりの一環として、春は「牧場体験とタケノコ狩り」秋は「見たい聞きたいとこハイキング」などの企画も行っています。

マンパワー的には大変なところもありますが、みなさんと一緒に楽しみたい。もっともっと人の輪、学びの輪を広げていきたいと頑張っています。会員を問わず気軽にお声掛けをください。楽しい仲間があなたをお待ちしています。

群馬同窓会の紹介

群馬同窓会会長　下田　清美さん

群馬同窓会は、平成元年12月に設立され、放送大学同窓会連合会とほぼ同時期の歴史ある同窓会です。
会員数は、平成20年3月現在で689名に達し、4月の定期総会から始まり、講演会、春季秋季研修会、大学との懇談会、私の課題発表会、会報「赤城嶺」の発行などの事業を行っています。

当同窓会は、学習センターとの相互連携で、土曜フォーラムや学生履修サポート会などの事業に協力するとともに、共催事業も行っています。

また、1学期（9月）の卒業祝賀会は、学習センターに支援していただきながら同窓会が主催で実施しており、本年6月25日から29日には、群馬県前橋市において、放送大学所蔵コレクション展が開催される予定ですが、当同窓会役員も毎日2～4人程度受付や案内を中心に全面的な応援をする予定でいます。

そのほか、昨年4月に沼田に設置されたミニサテライトは、他の視聴外施設と異なり、地元同窓会の会員や卒業生のボランティアにより運営されており、利用者も多く、遠隔地の学生から「大変便利になった」と喜ばれています。

このたび、学習センターに「広報・学習サポーター」の名刺を作っていただきましたので、今後は、県内各地において、各人各様に地域に浸透した地道な活動が為され、学生数の増加や同窓会活動の活性化につながるものと大いに期待するところです。

卒業生にとって、放送大学や在学生に何かの形で役立つ活動を展開することこそ、同窓会の使命と痛感し、時代にマッチした新しい波を起こすべき時と、役員一同意欲を持って取り組んでおります。

2009年度からの学部の再編成（Ⅱ）

2009年度から実施される学部の専攻及び大学院のプログラムの再編成については、概要を前号でお知らせしましたが、今回は学部学生の所属する専攻からコースへの移行についてお知らせします。なお、大学院生は学部学生と異なり、在学生の新プログラムへの移行および修了要件の変更はありません。
（前号のON AIR3月号は放送大学ホームページ「大学概要」の広報誌に掲載されています）

学部学生の所属専攻からコースへの移行について

2008年度まで 旧専攻		2009年度以降 新コース
生活科学	生活と福祉	生活と福祉
生活科学	発達と教育	心理と教育
産業・社会	社会と経済	社会と産業
産業・社会	産業と技術	社会と産業
人文・自然	人間の探究	人間と文化
人文・自然	自然の理解	自然と環境
		教養学科

2008年までに入学した者の取り扱い

1.所属の移行にかかる取り扱いについて
旧専攻から新コースに移行を希望する場合は、左表のとおりとなります（希望しない場合は旧専攻のまま）。
なお、新コースから旧専攻への移行は認められません。
また、「産業と技術」に所属する学生の移行先は、「社会と産業」又は「人間と文化」のいずれにするかを、学生に確認します。

2.専攻を卒業した者の再入学の取り扱いについて
従来どおり、専攻に対応したコースへの再入学は認められません。専攻からコースへの読み替えについては左表のとおりです。
ただし、「産業と技術」専攻の卒業者については、「社会と産業」と「人間と文化」のいずれのコースへも再入学を認めます。

3.期間満了除籍者等の再入学の取り扱いについて
旧専攻に対応するコース及び他のコースに入学することができます（旧専攻へ再入学することはできません）。

科目区分の移行及び新旧読み替えについて

・2009年度以降の新コースにおいては、科目区分が現行の2区分から4区分に変更になります。これに伴い新要件、旧要件への読み替えは、それぞれ下記の図のとおりとなります。（科目毎の詳細な読み替えは、今後ホームページ（授業科目案内）でお知らせします。）
・2007～2008年度までの「共通科目（基礎科目）」及び「専門科目（総合科目）」の単位を修得した方については、2009年度以降の新要件ではそれぞれ「基礎科目」および「総合科目」とみなされ、再入学に際しても同様に扱われます。

●4区分の読み替え（外国語科目を除く）

新要件への読み替え		
共通科目（基礎科目） 共通科目	→	基礎科目
	→	共通科目
専門科目 専門科目（総合科目）	→	専門科目
	→	総合科目

旧要件への読み替え		
基礎科目	→	共通科目
共通科目	→	
専門科目	→	専門科目
総合科目	→	

●外国語科目の読み替え

新要件への読み替え		
外国語（共通・基礎科目） （共通科目）	→	外国語（基礎科目）
	→	外国語（共通科目）

旧要件への読み替え		
外国語（基礎科目）	→	外国語（共通科目）
外国語（共通科目）	→	

学部・大学院の再編成の**詳細は次号9月号**に掲載する予定です。

教養学部学生及び大学院修士選科生・修士科目生 募集

広報課・学生課

平成20年度第2学期の学生募集を以下のとおり行います。

出願期間	平成20年6月15日(日)～平成20年8月31日(日)
合否通知等	平成20年8月上旬～平成20年9月中旬
学費の納入	平成20年8月上旬～平成20年9月末
入学許可通知・印刷教材等の配送	平成20年8月中旬～平成20年9月末
授業開始	平成20年10月1日(水)

・放送大学に関心があるご友人、ご親戚他お知り合いの方にも、この機会にぜひ本学についてご紹介くださり、入学をお薦めいただくようお願い申しあげます。

また、平成20年9月末をもって学籍が切れる学生の方で、平成20年度第2学期以降も引続き学習を希望される場合は、改めて入学手続きが必要となりますが、入学料が割引になります。

・出願締切日は平成**20年8月31日(日)＜必着＞**です。

大学院文化科学研究科修士全科生 募集

教務課

放送大学大学院文化科学研究科では、平成21年度修士全科生の学生募集を以下のとおり行います。

平成21年度修士全科生学生募集要項配布開始…平成20年6月13日(金)

出願期間	平成20年8月23日(土)～平成20年9月12日(金)18:00(必着)
第一次選考(書類審査)	平成20年9月下旬～平成20年10月上旬
第一次選考(書類審査)合否通知	平成20年10月10日(金)発送
第二次選考(筆記試験)	平成20年10月26日(日)
第二次選考(面接試問)	平成20年11月15日(土)～平成20年11月16日(日)
合否通知等	平成20年12月12日(金)発送
学費の納入	平成21年3月上旬～平成21年3月中旬
入学許可通知・印刷教材等の配送	平成21年3月中旬～平成21年3月下旬
平成21年度授業開始	平成21年4月1日(水)

・修士全科生は、修士課程を修了して、学位「修士(学術)」の取得を目指す学生です。
・大学卒業(卒業見込みを含む)の方またはこれと同等以上の学力があると認められた方※が出願できます。
・募集人員は500名で、入学者選考に合格した方が、入学できます。
・修士選科生・修士科目生として修得した単位は、その後本学大学院に修士全科生として入学した場合、原則として大学院の修了要件として認められます。
※本学が行う出願資格事前審査で認められることが必要です。申請期間は、平成20年7月27日(日)～8月5日(火)です。詳細は募集要項をご覧ください。

「まくはり便り」がスタートしました!

放送大学ホームページに5月より「まくはり便り」を新設しました。学長、副学長をはじめ教員より学生の皆さんに役立つ様々なメッセージ、情報をタイムリーに伝えていくことといたします。(放送大学ホームページ→大学概要→広報誌の下)

大学の窓 The Open University of Japan からのご案内

毎週、学習に役立つ情報をお伝えしております。ぜひ、ご覧ください。

●放送時間：12:45～13:00
19:45～20:00
23:45～24:00(日・月のみ)

私たち3人がお伝えします

放送大学のイメージキャラクターが決まりました!

キャラクターデザイン こうの史代

編集後記

今年は「源氏物語千年紀」で、展覧会や本の出版も盛んだ。源氏物語に限らないだろうが、すぐれた文学とは時の移ろいを描き出すものである。最後のページを静かに閉じた瞬間に、私たちは時間との関わりにおいて、人間や社会について思索することを要請されることになる。しかし、移ろいの感覚がとりわけ心に沁みるのは、過ぎし日が、刻々と変化する現在の集積にほかならないからだろう。ON AIRもこの号で、90号となった。創刊は1985年7月だった。23年という歳月が、今を、そして明日を創る。爽やかな青水無月(あおみなづき)には、春の長閑(のど)けさとも、秋のうら寂しさとも違う時間の流れが息づいている。(島内裕子)

ご意見やご感想をお聞かせください。メールアドレス editor@u-air.ac.jp

放送大学通信 オン・エア 編集委員(平成20年度)
委員長　教授　柏倉　康夫
副委員長　教授　松村　祥子
委員　准教授　岡崎　友典
　　准教授　原田　順子
　　准教授　坂井　素思
　　准教授　島内　裕子
　　准教授　二河　成男
編集事務担当　教務部学習センター支援室

放送大学
http://www.u-air.ac.jp/　ISSN 1343-3369